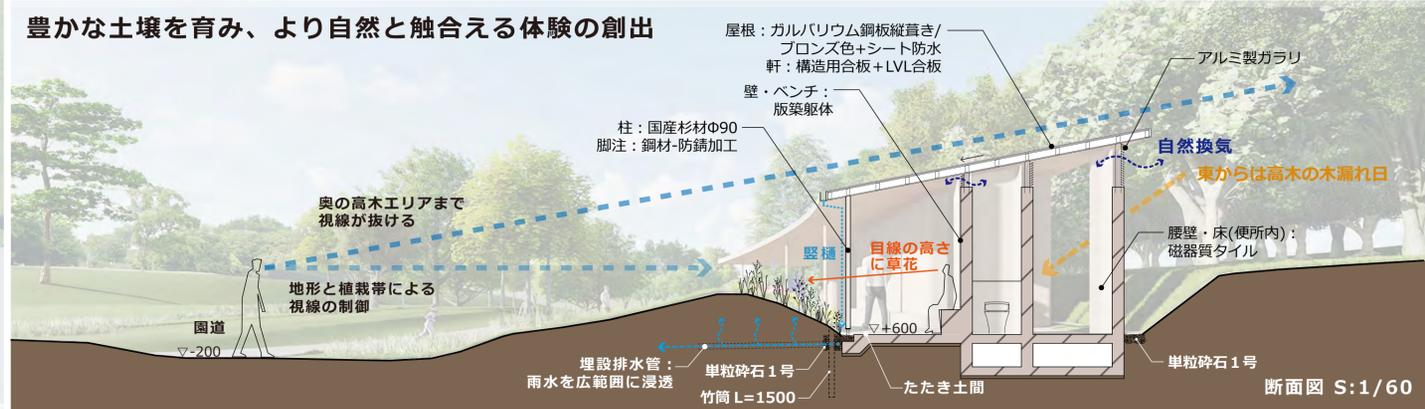
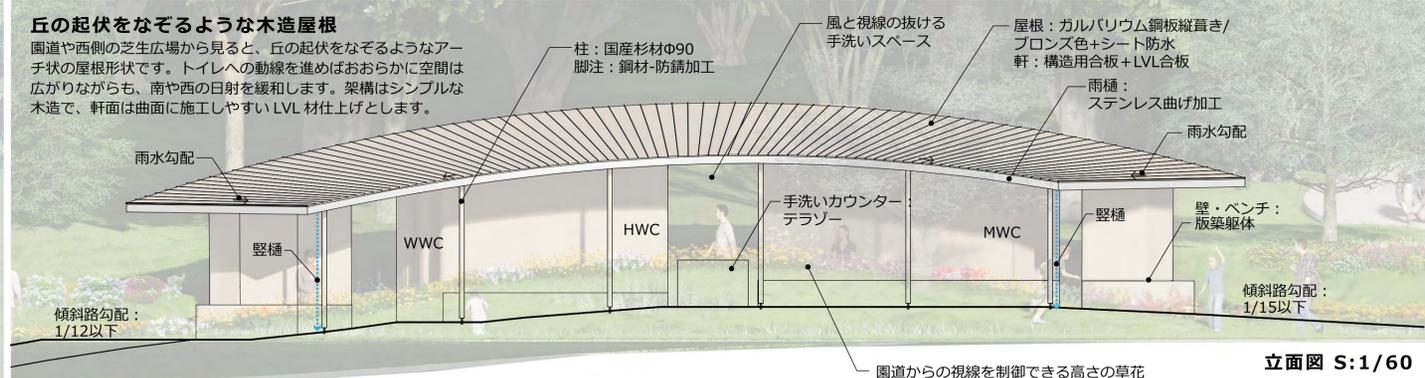
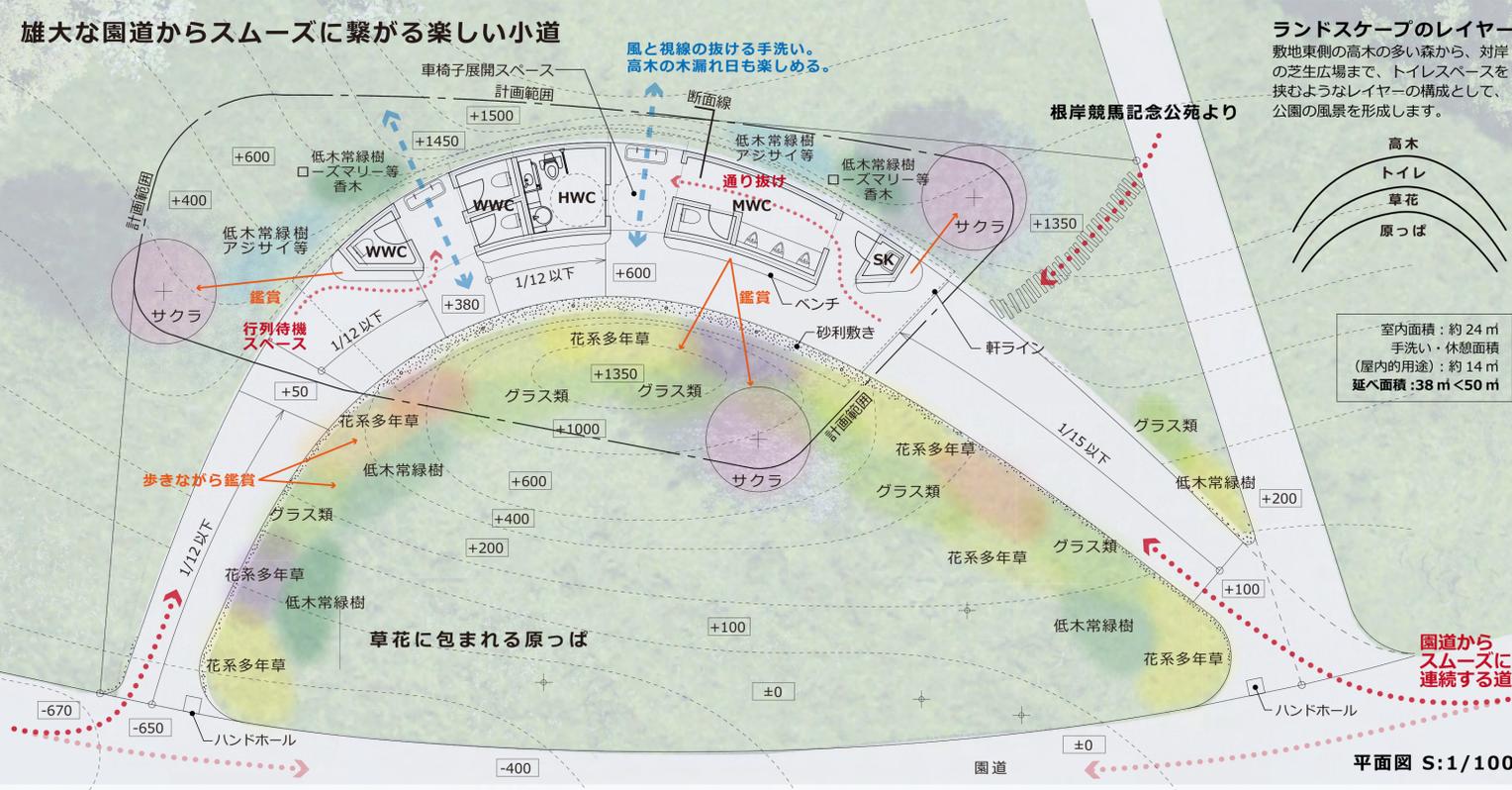




丘の小道



**小道によって繋がる自然体験**  
公園の最大の魅力は、起伏に富んだ雄大な原っぱと長い散歩道です。本計画をきっかけに、散歩やピクニック等をより楽しめる場づくりを目指します。トイレ機能をアーチ状の小道に集約することで、多く自然エリアを残します。この道は、手前の芝生広場から奥の森を結びます。並走する草花ゾーンは、トイレへの動線、南側の原っぱを多様な植栽で包まれた場とします。

**開花から冬枯れまで、移ろいを感じる草花**  
本公園は、桜山や梅林が大きな魅力ですが草花類は多くはありません。公園の新たな魅力として、より自然な草花ゾーンの形成を提案します。「花類多年草」「低木常緑樹」「グラス類」のグループを織り交ぜながら配置し、四季を通して移ろいを楽しめるようにします。また、敷地環境と気候を踏まえ、日向・半日陰の適性もとに種類の選定を行います。

**すべてスロープのスムーズな動線**  
トイレへの動線は、公園での気持ちよい散歩の延長として位置づけます。ストレスのない「通りぬけ」を目指し、動線は完全にスロープです。散歩やランニングが途切れることなくスムーズにできること促します。バリアフリー用の動線には南側からのアクセスを 1/15 以下の緩い勾配として、特に体の不自由な方へ配慮した計画としています。

**快適なトイレの環境づくり**  
トイレ特有のじめじめした環境を解消するために、建物を南北に細長い計画として、周囲にたくさんの日照を確保します。またヴォリュームを分割し、特に湿気が溜まる手洗い場は半屋外空間として水はけや風通しも確保します。トイレ内の水がかりになる部位は磁器質タイル等を採用し耐久性・メンテナンス性を重視します。

**土を活かす**  
公園を散歩する時は土や芝生など、都心部ではあまりない自然の上を歩ける楽しみがあります。本計画では、身体に近い舗装や壁の部位は、土素材を積極的に取り入れます。舗装はたたき土間、壁やベンチは版築とし、大地との連続を図ります。また、掘削した土は廃棄せず敷地内のランドスケープに活かします。

**循環する土壌づくり**  
屋根に降った雨水は雨樋で集め、中に埋設した有孔の暗渠排水管へとつながります。ここから満遍なく植栽帯に水を浸透させることで、草花のための有効な水資源とします。また、竹筒などを設置することで土壌環境の改善も行いより豊かな土壌の形成に寄与できる計画を試みます。